

1 「外郭団体のあり方の抜本的な見直し」に係る「今後の方向性」

「外郭団体のあり方の抜本的な見直し」に係る各団体の「今後の方向性(存続, 自律化, 解散又は統合)」と「目標年度」を記載する。団体経営の長期的な目標であり, 「中期経営計画」はこれらを実現するための工程表である。

方向性	存続	目標年度	—
-----	----	------	---

2 「今後の方向性」に向けた基本的方針

「外郭団体のあり方の抜本的な見直し」に係る各団体の「今後の方向性」を実現するため, 業務面や財務面等についての基本的な方針を定める。「今後の方向性」が「自律化」の団体については, 「目標年度」までの方針となる。

業務面	京都市国際化推進プランに即した事業促進を進める事を基本とし, 協会の20周年時に策定した「20歳の誓い・10年プラン」に明記されている「誰もが社会の一員として, 自分の意見や想いを自由に伝えあう事ができる社会」「誰もが世界の人とのつながりを実感できる社会」を理想の社会として, その社会の構築のための事業を実施する。
財務面	協会の財務基盤の強化のため, 協会収入の多くを占める指定管理料だけではなく, 補助金や助成金・寄付金など他の収入増加のための努力を続ける。
組織面	協会運営を担える人材の育成に力点を置く。
その他	特になし

3 基本的方針を実現するための具体的取組(2年間の計画期間中における具体的取組)

- ① 「2 「今後の方向性」に向けた基本的方針」を実現するための具体的取組を記載する。
- ② 取組ごとに、各年度の目標となる指標及び目標値を設定する。
- ③ 計画期間の最終年度(平成29年度)の目標値が中期経営計画全体の目標値となる。

(1)業務に関する取組

目標1「施設利用者の拡大」

取組内容	「春!kokokaおもてなし広場」(岡崎地域の活性化のために運営をされている京都岡崎魅力づくり推進協議会との連携事業)をはじめ、協会が従来から実施してきた事業とは別に、前庭や応接室など有料施設以外の施設の有効利用等により来館者の増加を図る。また、従来から実施している事業をより充実させ、利用者の年齢層拡大を目指し在住外国人をはじめ留学生、市民に利用しやすい施設運営を行う。					
○指標1	入館者数					
採用理由	協会が実施している事業が市民に受け入れられているかを判断するのに重要な基準となるため。					
目標値	H26(目標)	H26(実績)	H27(目標)	H28	H29	(単位:人)
	260,000	254,801	262,000	267,000	269,000	
実現方法	前庭や応接室など有料施設以外の積極的な活用、閑散期(区分)の割引制度の新設等、新たな打ち出しを実施する。					
○指標2	セミナーイベントへの参加者数					
採用理由	協会が実施している事業が市民に受け入れられているかを判断するのに重要な基準となるため。					
目標値	H26(目標)	H26(実績)	H27(目標)	H28	H29	(単位:人)
	32,944	32,566	33,287	33,630	33,973	
実現方法	前庭や応接室など有料施設以外の積極的な活用、閑散期(区分)の割引制度の新設等、新たな打ち出しを実施する。					

目標2「国際交流や多文化共生に携わる市民や民間団体の育成・支援」

取組内容	市民がボランティア活動に主体的・自主的に関わることで、京都の国際化や共生社会について考える契機となり、誰もが住みやすい地域社会を作っていくため、担い手の支援を行う。					
○指標1	登録ボランティア数					
採用理由	協会の基幹事業の数値により協会の状況を把握するため。					
目標値	H26(目標)	H26(実績)	H27(目標)	H28	H29	(単位:人)
	600	473	500	500	500	
実現方法	ボランティア登録者数の拡大を主目的にするのではなく、継続して活動できる基盤を整備し安定的な運営を目指す。					
○指標2	登録ボランティア主催イベント開催回数					
採用理由	協会の基幹事業の数値により協会の状況を把握するため。					
目標値	H26(目標)	H26(実績)	H27(目標)	H28	H29	(単位:回)
	—	—	4,000	4,000	4,000	
実現方法	ボランティアの自主性が発揮できる環境を作り安定的に実施できるように進める。					